

保育・幼児教育施設の 園庭に関する調査

～子どもの育ちを支える
豊かな園庭とは？～

＜報告者＞

辻谷 真知子（東京大学大学院教育学研究科）

宮田 まり子（白梅学園大学子ども学部講師）

＜共同研究者＞

石田 佳織（園庭研究所所長）

宮本 雄太（東京大学大学院教育学研究科）

秋田 喜代美（東京大学大学院教育学研究科教授）

報告の概要

I 本調査の背景と目的

II 方法（調査の概要）

III 結果

1. 園庭あり・なしによって何が違うのか
2. 実態と実践
3. 特徴的な取り組みや工夫

IV まとめ



Ⅰ 本調査の背景と目的

＜園庭では、運動場としての機能とともに…＞

- 自然の大きさ、美しさ、不思議さなどに直接触れる体験を通して、園児の心が安らぎ、豊かな感情、好奇心、思考力、表現力の基礎が培われる（認定こども園教育・保育要領）

＜そのために…＞

- 幼児が自発的、自主的な活動を展開できるように計画・設計
- 幼児の多様な活動内容や利用頻度等を十分勘案した適切な空間構成，配置等を計画
- 幼児の自然体験を豊かにするため、現存する森，樹木，池等や自然の傾斜，段差等を有効に活用

（幼稚園施設設備指針）

➤各施設では、土地の自然環境や気候に応じた豊かな実践が
目指されている

Ⅰ 本調査の背景と目的

屋外で子どもが安心して活動できる環境や時間の減少



それらを保障するものとしての、**保育・幼児教育施設における「園庭」の役割**の高まり

- ✓各施設の豊かな実践
- ✓都市部等では面積が十分に確保できない現状も
- ✓国内全体の傾向や実態については不明な点も多い



- 国内の保育・幼児教育施設における園庭について
 - ・**実態**（どのような環境があるのか、ないのか）
 - ・**実践**（どのような工夫や取り組みがなされているのか）を明らかにし、子どもの育ちに今後必要とされることを考える。

Ⅰ 本調査の背景と目的：3つの問い

1. 園庭あり・なしによって、何が違うのか？

2. どのような実態があり、
いかに実践がなされているのか？

3. 各施設における特徴的な取り組み。
園庭が無かったり狭くてもできる工夫は？



II 方法：質問紙調査の概要

実施時期：平成28年11月25日～
平成28年12月16日

全16ページ

<構成>

- 施設の概要等を記入（表紙・裏表紙）
- Part1. 園庭の状況について
- Part2. 子どもの活動について
（園庭がある施設のみ）
- Part3. 取り組みや大切にしたいことについて

園庭に関する調査	
2016年11月	
このたびは本調査にご協力いただきありがとうございます。 本調査は園庭（屋外環境）の状況や活用について調べるために行うものです。調査は3つのパート（「1. 園庭の状況について」「2. 子どもの活動について」「3. 取り組みや大切にしたいことについて」）で構成されています。 本調査は東京大学の倫理規定に則り、情報の漏洩防止とプライバシーの保護を徹底した上、学術的な目的のみに使用させていただきます。データを入力後、施設可能な場所にて厳重に保管するなど、個人情報の保護に最大限の配慮をいたします。回答は全て調査者の厳重な管理のもとで、コンピュータにより統計的に分析されますので、個人や園が特定されることはありません。また、回答はお一人でも、分担して複数人でご回答いただいても結構です。園庭の有無により答え方の異なる箇所がございますので、指示に沿ってお進みください。 お忙しいところ大変恐縮に存じますが、ご理解とご協力のほど何卒よろしくお願い申し上げます。 12月16日（金）までにご返函いただければ幸いです。	
《本件に関するご意見・お問い合わせ先》 ※できるだけメールをご利用ください 東京大学大学院教育学研究科 附属発達保育実践政策センター 園庭調査研究プロジェクト責任者 秋田喜代美 E-mail: ente-asobi2016@e.cec.u-tokyo.ac.jp 電話番号：03-5841-3913	
※選択肢については、「該当するもの全て」「複数選択可」とある項目を除き、該当するもの1つに○をつけてください。	
※以下の欄へのご記入をお願いします。	
1.	施設開設年（西暦）年（ ）月
2.	記入者（複数選択可） (1) 園長 (2) 理事長 (3) 副園長 (4) 主任 (5) クラス担任 (6) 事務員 (7) その他
3.	総園児数 (1) 50名以下 (2) 51～100名 (3) 101～200名 (4) 201～300名 (5) 301名以上
4.	在園児の年齢（該当するもの全てに○をつけてください） (1) 0歳 (2) 1歳 (3) 2歳 (4) 3歳 (5) 4歳 (6) 5歳 (7) 6歳
5.	年齢別の内訳 0～2歳児クラス（2016年4月時点で3歳未満）（ ）名 3～5歳児クラス（2016年4月時点で3歳以上）（ ）名
次頁へお進みください。	

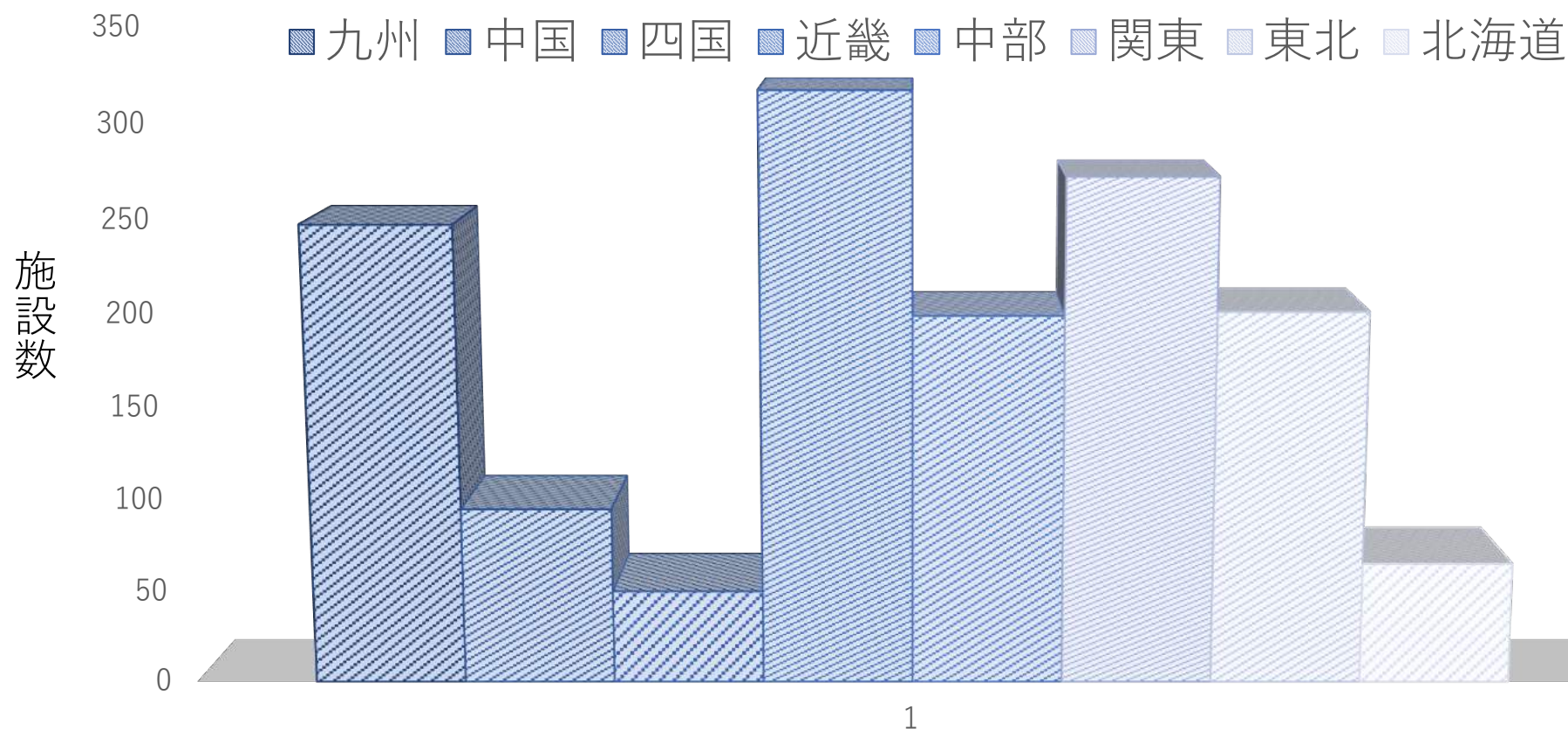
II 方法：質問紙調査の概要

ご協力いただいた方

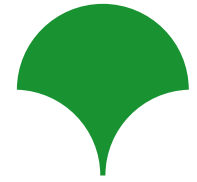


1. 全国の保育・幼児教育施設

2,922施設配布・1,448施設（49.6%）（うち認定こども園は1343施設）

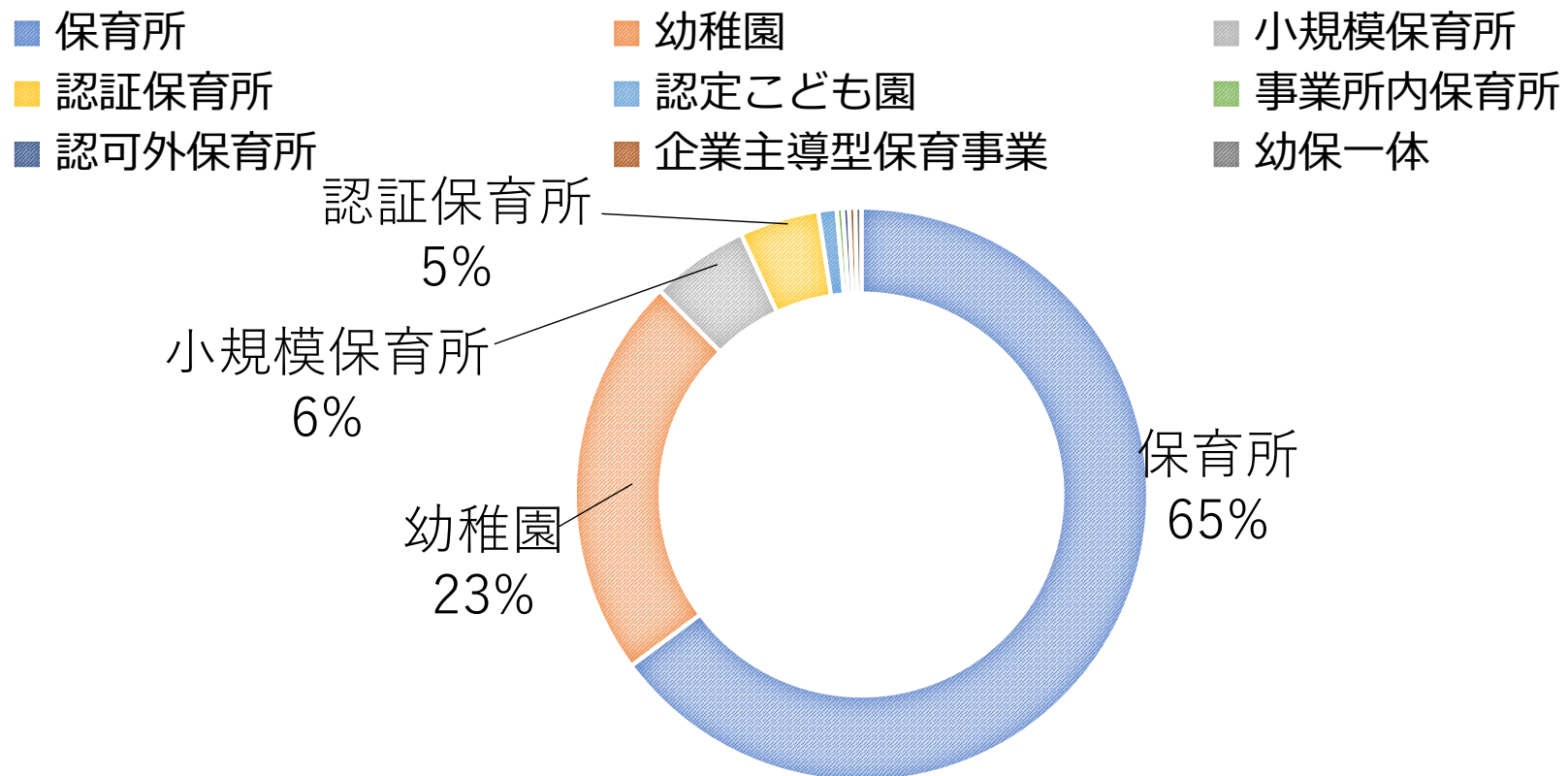


II 方法：質問紙調査の概要



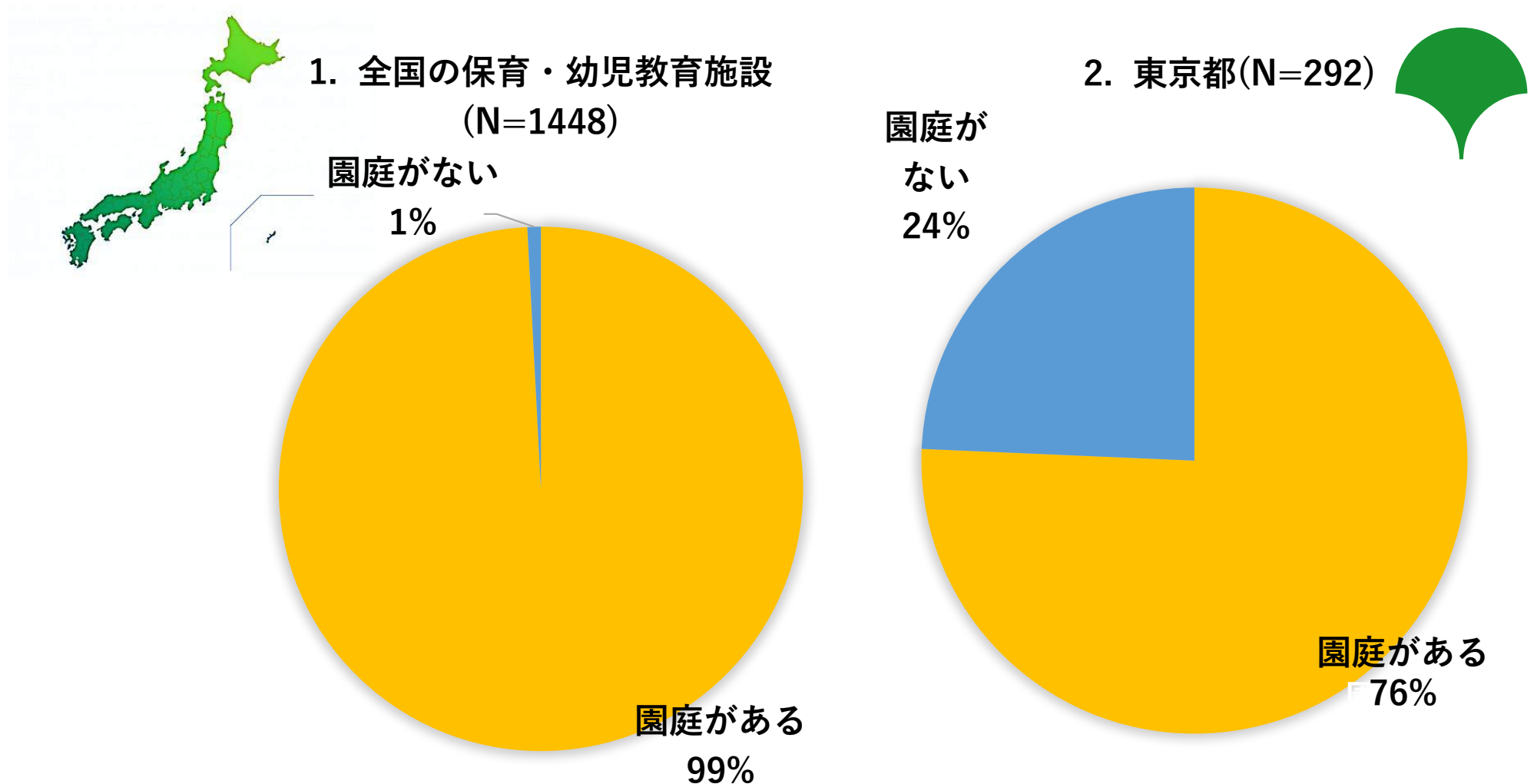
ご協力いただいた方

2. 東京都5区（板橋区・大田区・千代田区・豊島区・文京区）の 各種施設（いずれも公立私立含む） 573施設配布・292施設（51.0%）



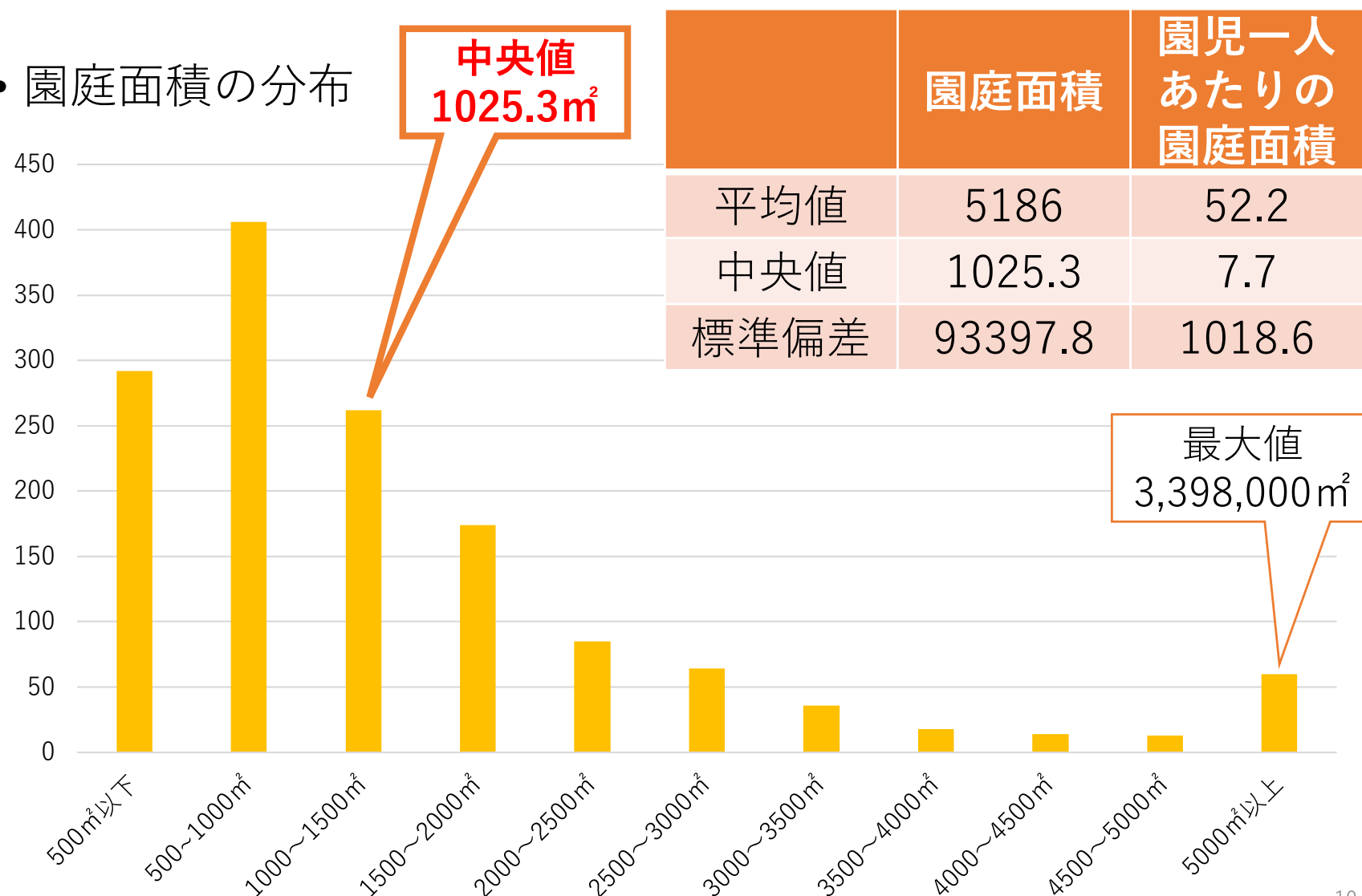
II 方法：質問紙調査の概要

ご協力いただいた園の園庭の有無



II 方法：質問紙調査の概要（園庭面積）

• 園庭面積の分布



	園庭面積	園児一人あたりの園庭面積
平均値	5186	52.2
中央値	1025.3	7.7
標準偏差	93397.8	1018.6

Ⅲ 結果：3つの問い

1. 園庭あり・なしによって、何が違うのか？
2. どのような実態があり、
いかに実践がなされているのか？
3. 各施設における特徴的な取り組み。
園庭が無かったり狭くてもできる工夫は？



Ⅲ 結果：3つの問い－ 1

1. 園庭あり・なしによって、何が違うのか？

1-1. 子どもが屋外で過ごす時間

制約されるのか？

1-2. 物理的環境

何があって何がないのか？

1-3. 環境・屋外環境への満足度

その環境に満足しているか・充分と捉えているか？

1-1.子どもが屋外で過ごす時間

子どもが屋外で過ごす時間は、制約されるのか？

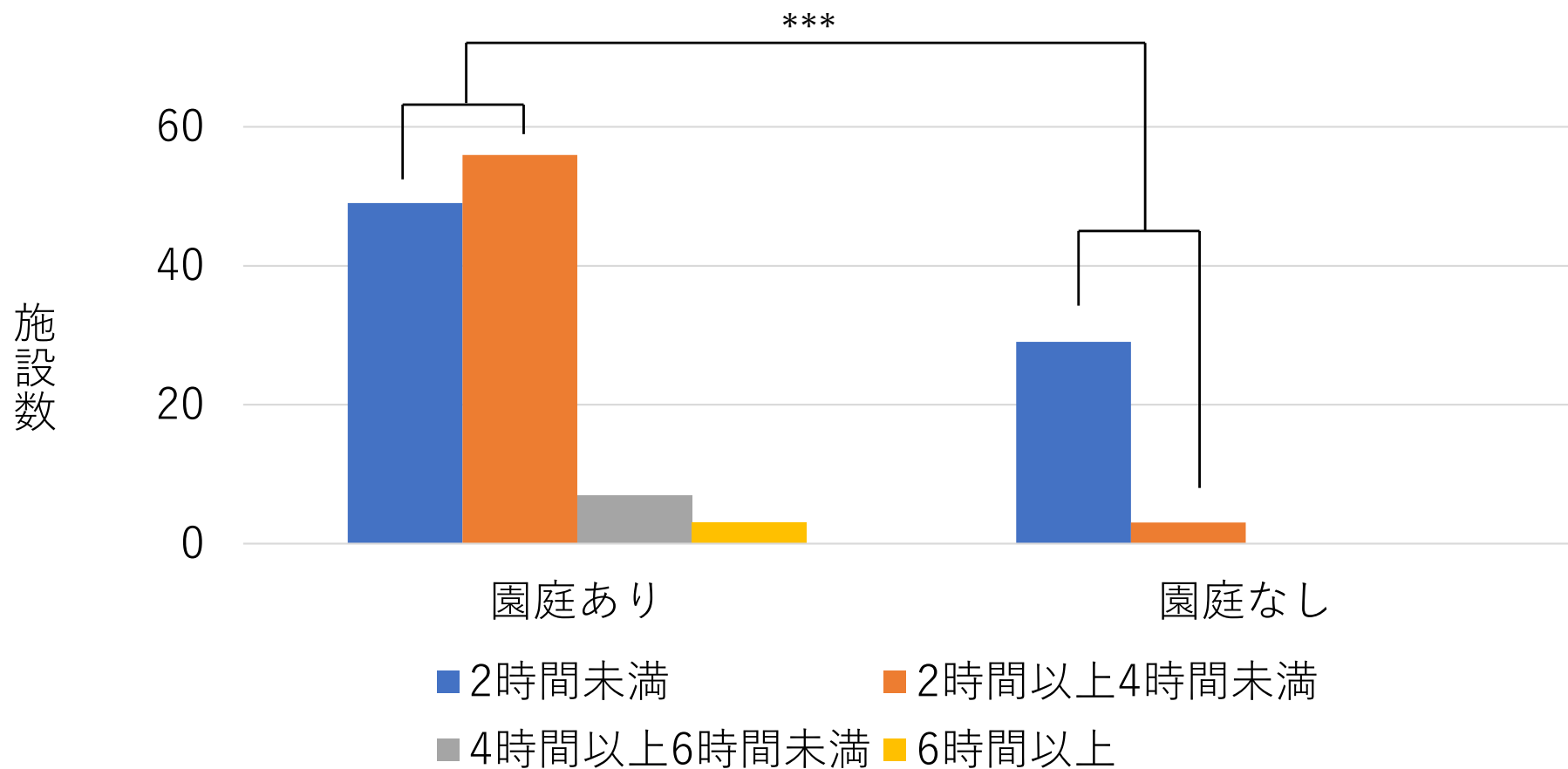
- 1~3号認定の子どもについて、園庭・屋外で過ごす時間を選択

	年齢	保育を必要とする事由 (就労等)	施設
1号認定	3~5歳	該当しない	幼稚園・認定こども園
2号認定		該当する	保育所・認定こども園
3号認定	0~2歳		保育所・認定こども園・地域型

- 幼児
- 施設に滞在する時間が長い

1-1.子どもが屋外で過ごす時間（東京都）

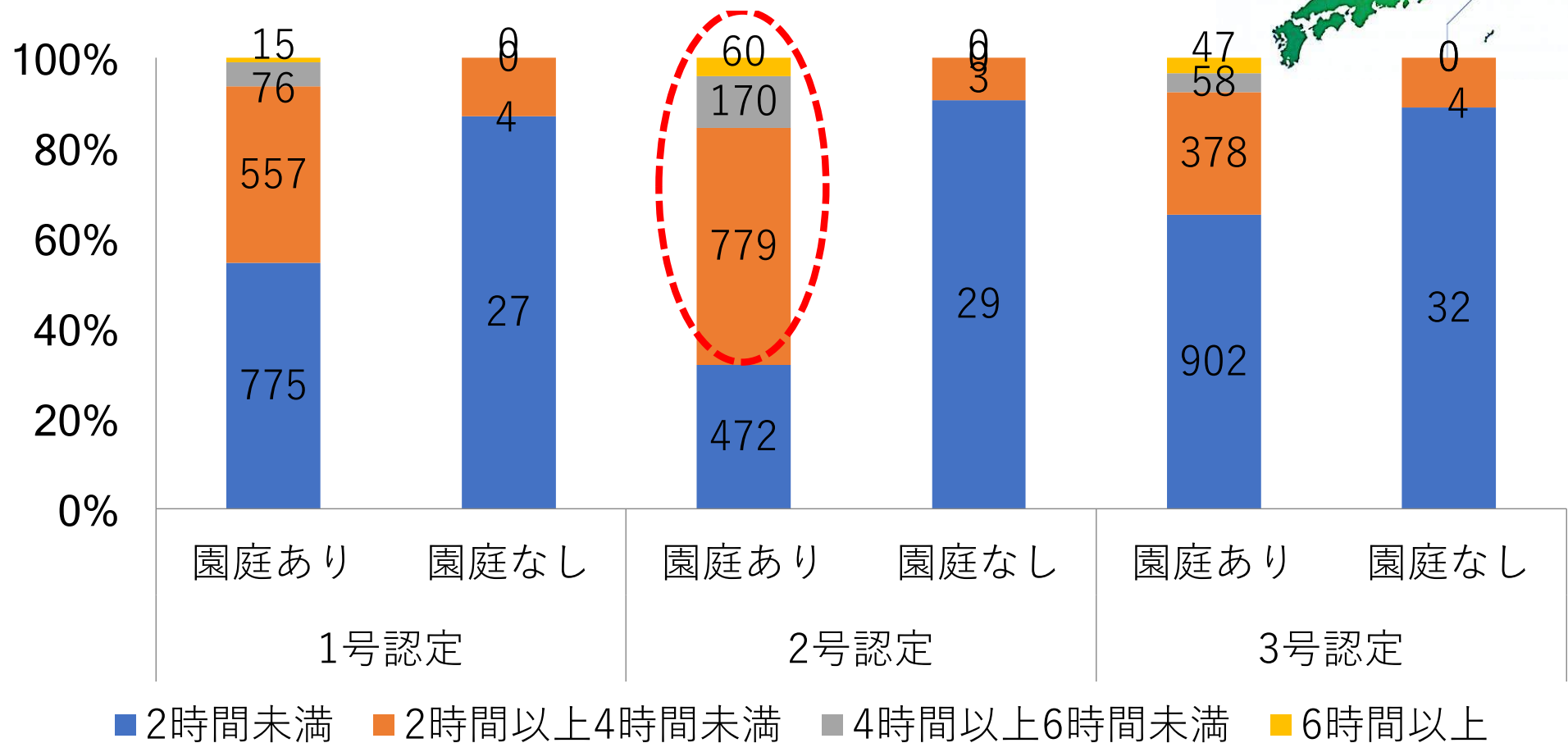
**園庭がある方が屋外環境で過ごす時間は長い
（2号認定児）。全国でも同様の傾向。**



2号認定児が園庭または屋外環境で過ごす時間（東京都）

1-1.子どもが屋外で過ごす時間

園庭あり施設の2号認定児は、2時間以上屋外環境で過ごす割合が高い。東京都でも同様。



1~3号認定児が園庭または屋外環境で過ごす時間（全国）

1-1.子どもが屋外で過ごす時間

ただし、**園庭で過ごす時間は施設により異なる**（1号認定児が2時間以上過ごす施設では、2号認定児も2時間以上過ごす施設が多い）。

1号認定児と2号認定児の「園庭で過ごす時間」に該当する施設数

		2号認定			
		2時間未満	2時間以上 4時間未満	4時間以上 6時間未満	6時間以上
1号認定	2時間未満	406▲ (55.2)	314▽ (42.7)	16▽ (2.2)	0▽ (0)
	2時間以上 4時間未満	6▽ (1.2)	383▲ (75.2)	114▲ (22.4)	6▽ (1.2)
	4時間以上 6時間未満	0▽ (0)	0▽ (0)	30▲ (45.5)	36▲ (54.5)
	6時間以上	0▽ (0)	0▽ (0)	0 (0)	12▲ (100)

施設に滞在する時間が
2号認定より短い幼児

1. 園庭あり・なしによって、何が違うのか？

時 間

園庭あり

園庭なし

屋外で過ごす時間が長い

屋外で過ごす時間は
施設によって異なる



園庭あり施設において
いかなる実践がなされているのか

問い2. で検討

1-2. 物理的環境

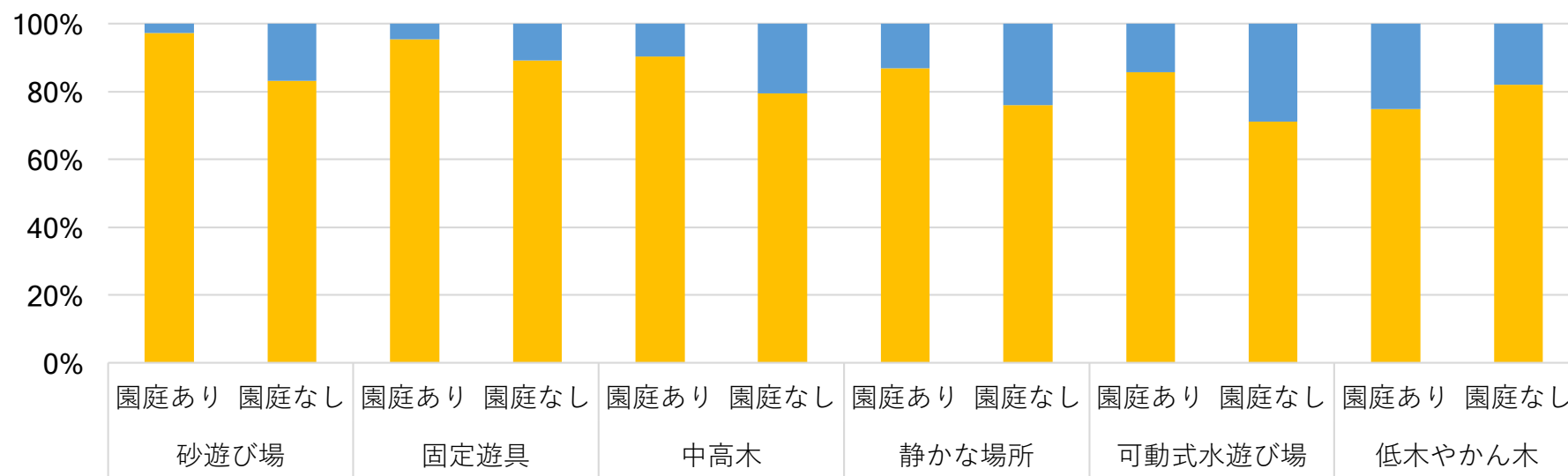
園庭や、園庭のない施設が用いる**近隣環境**において、何があり、何がないのか？

➤個別の物理的環境について尋ねた14項目

1-2. 物理的環境

園庭あり・なし共に、多くの施設で有する

砂遊び場、固定遊具、可動式水遊び場、
樹木、静かな場所



■ 有している ■ 有していない

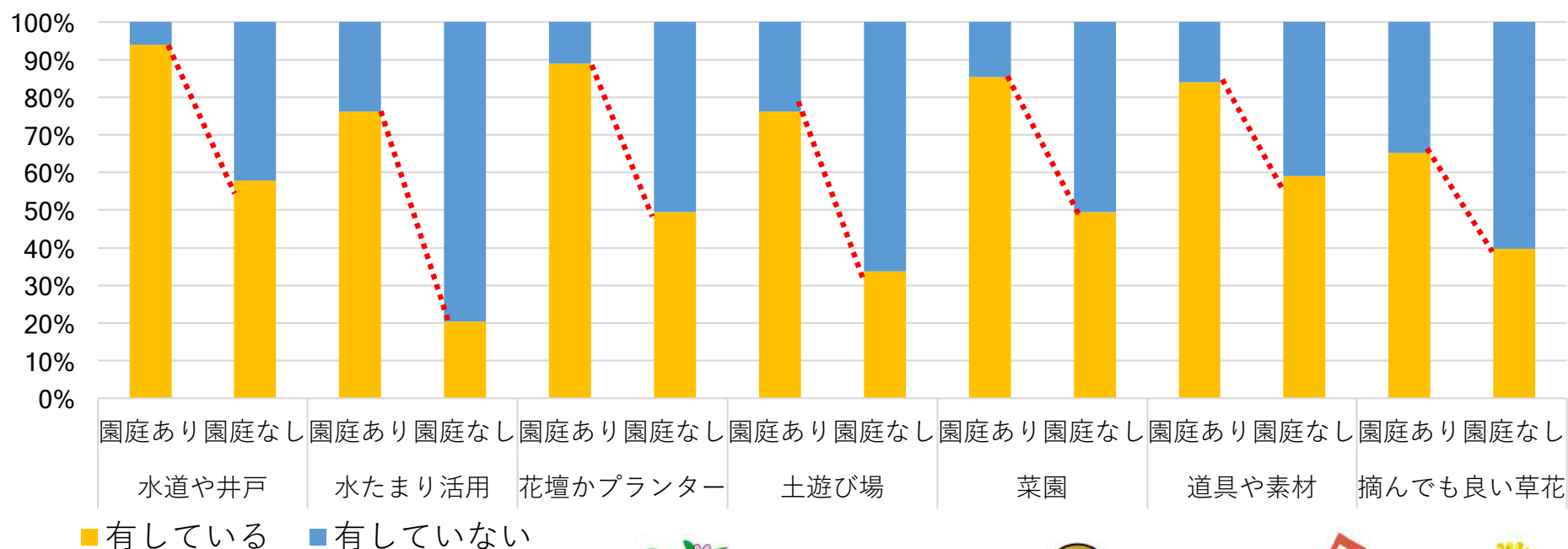


1-2. 物理的環境

園庭あり施設の方が、有する比率が高い



水道や井戸、花壇やプランター、土遊び場、菜園、
道具や素材、摘んでも良い草花（+水たまりを遊びに活用）

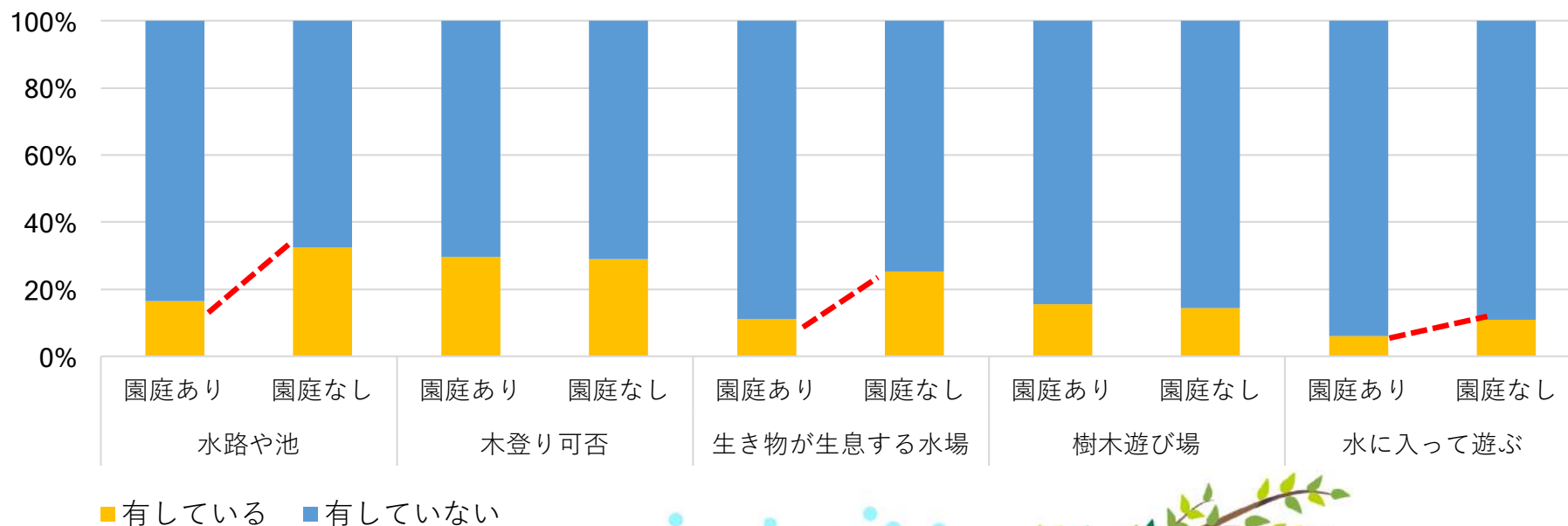


1-2. 物理的環境

園庭あり・なし共に少ない



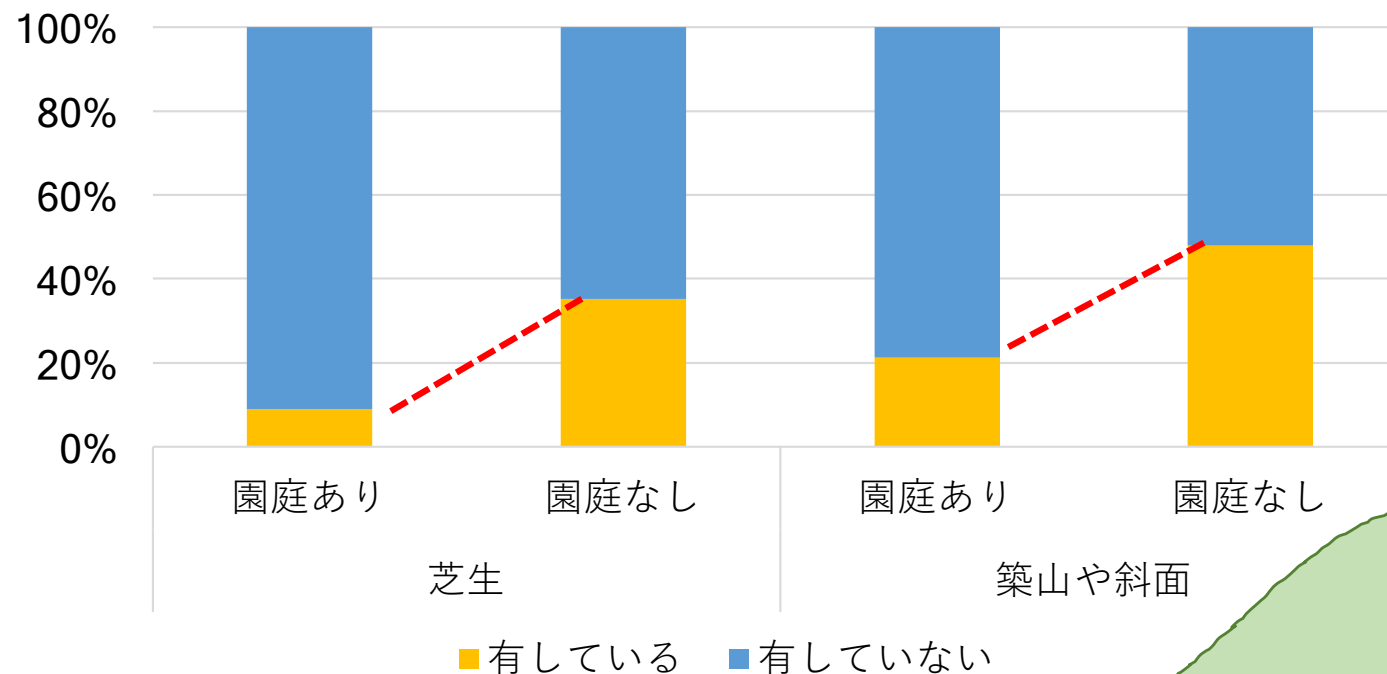
子どもが水遊びをする場、生き物が生息する水場、
木登りのできる木や樹木を活用した遊び場



1-2. 物理的環境

園庭なし施設の方が有する

築山や斜面、芝生、生き物が生息する水場、
子どもが水遊びをする場、水路や池



1-2. 豊かさを捉える指標としての 物理的環境の多様性:

個別の物理的環境について尋ねた14項目について、質に応じて0/1/2、もしくは0/2で計算した。※今回は開発途中であり、豊かさを捉える目安として検討中。

(例)

物理的環境	状況	計算
砂遊び場	砂遊び場として特定の場所が設けてある	2
	特定の場所はないが、園庭の砂を自由に取ることができる	1
	ない	0
芝生地	ある	2
	ない	0

	N	満点	最小値	最大値	平均値	標準偏差
園庭あり	1658	58	9	54	32.6	8.5
園庭なし	83	48	7	42	23.8	8.8

1. 園庭あり・なしによって、何が違うのか？

物理的環境

園庭あり

園庭なし

砂遊び場、固定遊具、可動式水遊び場、樹木、静かな場所

多い

水道や井戸、花壇やプランター、土遊び場、菜園、道具や素材、摘んでも良い草花

築山や斜面、芝生、生き物が生息する水場、子どもが水遊びをする場、水路や池

少ない

子どもが水遊びをする場、生き物が生息する水場
木登りのできる木や樹木を活用した遊び場

「園庭あり」では菜園や「摘むことができる」など環境との能動的な関わりができる環境が多い。一方、「園庭なし」では水に関係する環境との関わりは多く得られている可能性がある。

1-3. 園庭・屋外環境への満足度

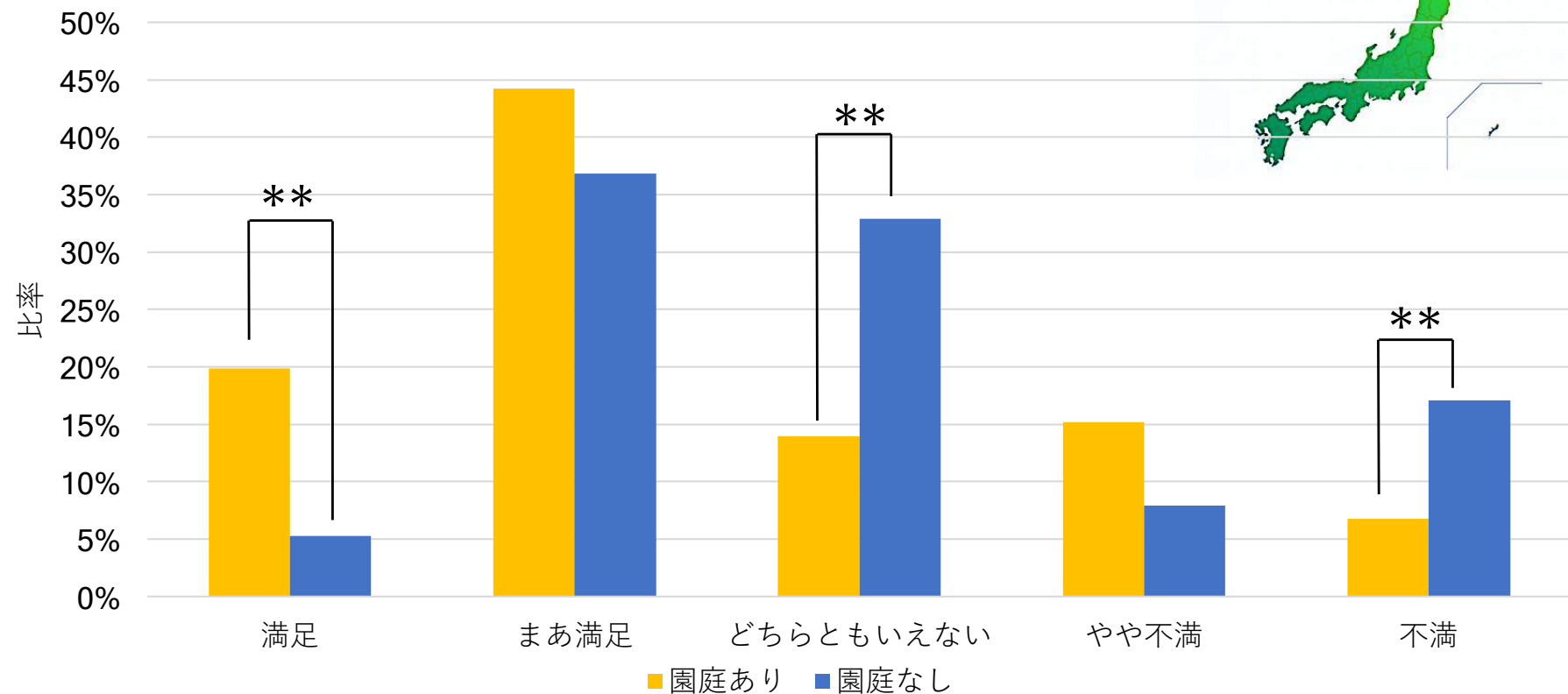
園庭や近隣環境は子どもに充分であるか？
どの程度満足しているのか？

- 充分かどうかは2選択（「充分」・「充分でない」）
- 満足度は5段階（「満足」～「不満」）



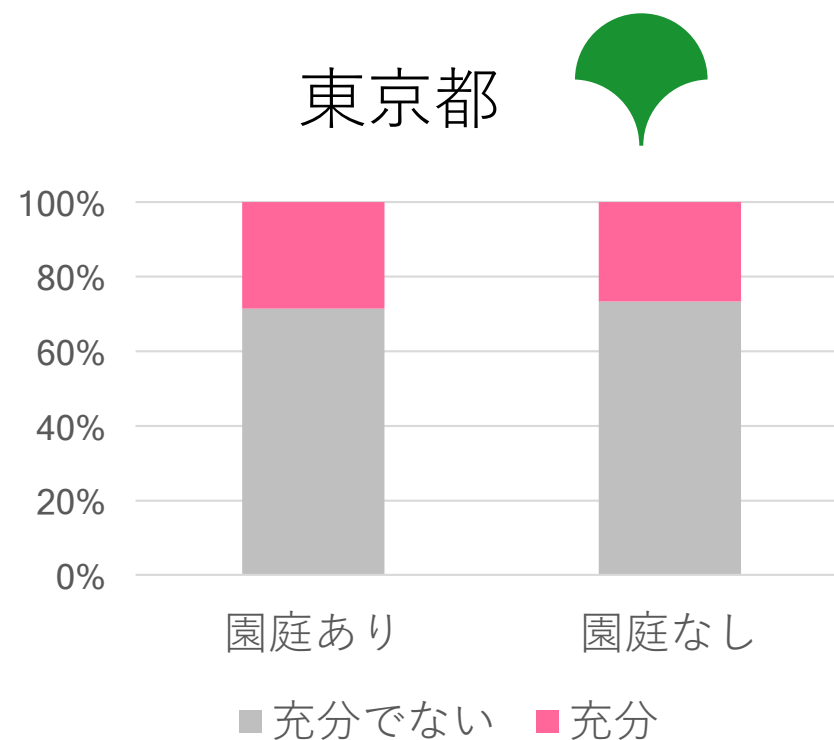
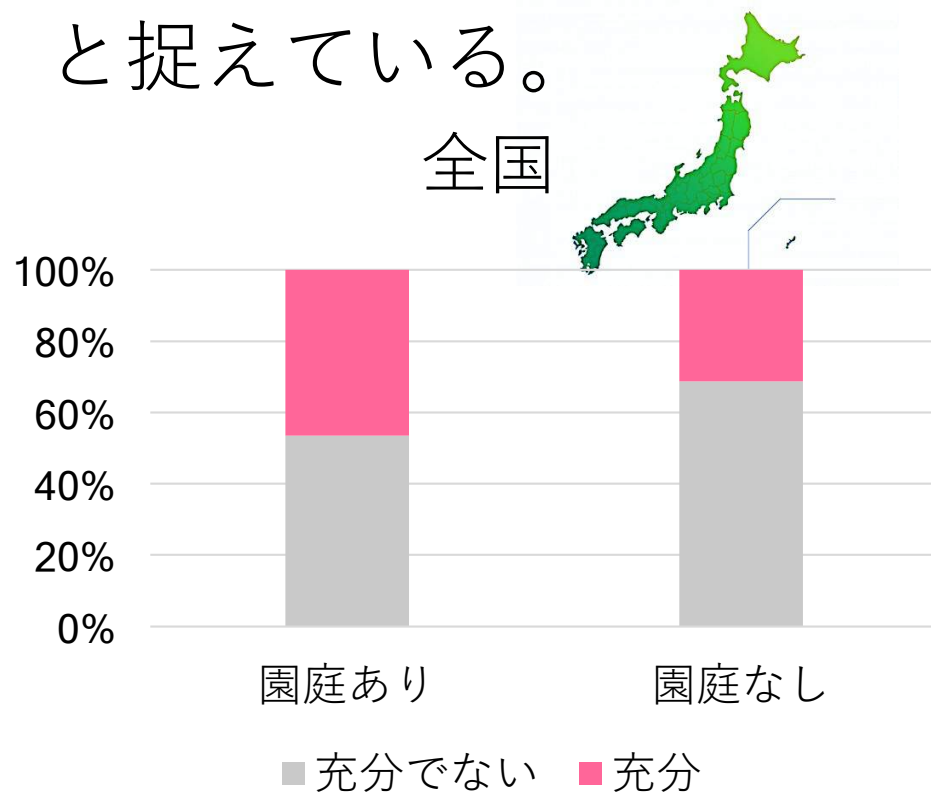
1-3. 園庭・屋外環境への満足度/ 子どもにとって充分か

園庭あり施設の方が、園庭なし施設より満足している比率が高い。



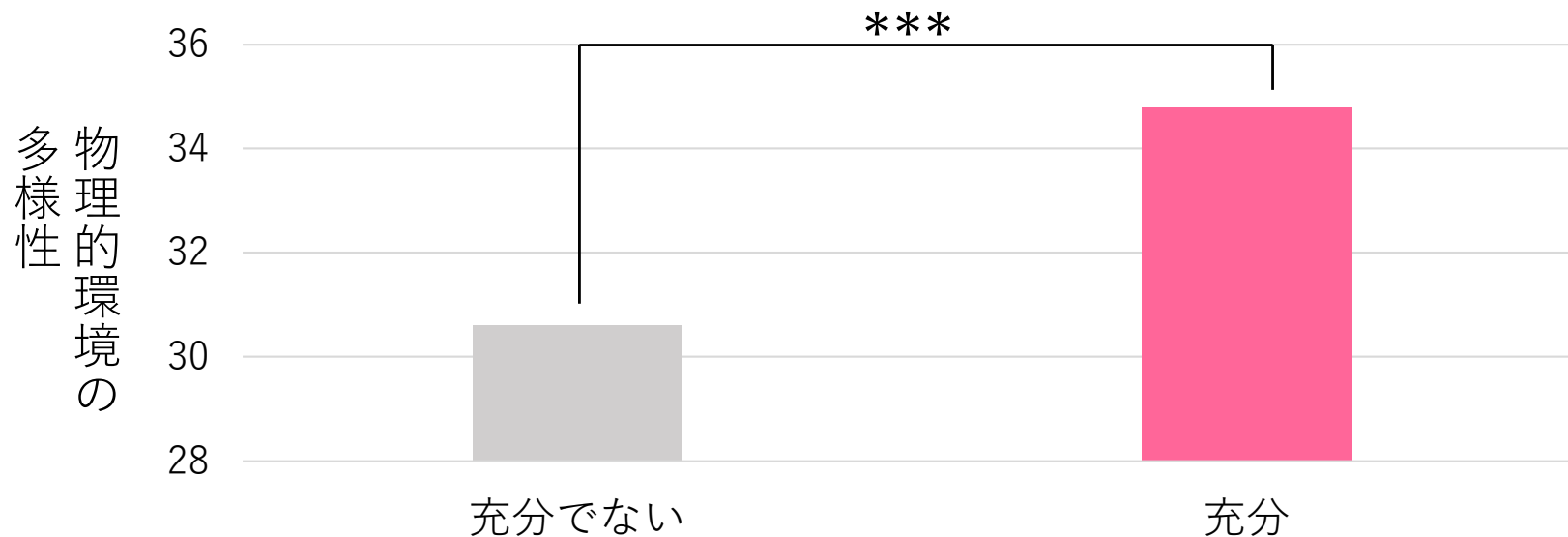
1-3. 園庭・屋外環境への満足度/ 子どもにとって充分か

園庭のある施設でも、**半数以上**（東京都では**7割以上**）で保育者は「子どもにとって**充分でない**」と捉えている。



1-3. 園庭・屋外環境が「子どもにとって充分か」と多様性指標

「**充分**」と捉える施設は、「充分でない」と捉える施設よりも**物理的環境が多様**である。ただし、**園庭面積や、子ども1人あたりの園庭面積については差がない。**



園庭あり施設における、「子どもにとって充分か否か」による
物理的環境の多様性指標の平均値

※園庭なし施設の屋外環境についても、同様の傾向がみられた。²⁸

1. 園庭あり・なしによって、何が違うのか？

満足度

園庭あり

満足度 高

充 分

充分でない

環境が多様

園庭なし

満足度

充 分

充分でない

環境が多様

「充分かどうか」は・・・

園庭面積や、子ども1人あたりの園庭面積については差がない。
環境が多様であることが子どもの経験と関係する。

1. 園庭あり・なしによって、何が違うのか？

時 間

「園庭あり」は長時間戸外で活動している。ただし、施設により異なる。

物理的環境

「園庭あり」は能動的な関わりができる環境を得ている。

「園庭なし」では水に関する環境との関わりは多く得られている。

満足度

環境が多様であることが子どもの経験と関係する。

III 結果：3つの問い－2

2. どのような実態があり、いかに実践がなされているのか？

2-1. 子どもの経験

園庭で何を経験できるのか？

2-2. 決まりごと

誰がどのように関わるのか？

2-3. 子どもの経験と「決まりごと」

2-4. 大切にしていること

何を大切にしているのか？

2-5. 園庭に関する情報共有

誰が共有しているのか？

2-1. 子どもの経験

園庭におけるそれぞれの場で、子どもはどのようなことを経験できるのか？

幼児が好む遊び場の性質。
幼児の遊び観（宮本他, 2016）*をもとに作成

1. **一息つくことができる場**
2. 友だちと**待ち合わせ**をしたり、**自然と集まったりする場**
3. **他の子どもの遊び**を見ることができる場
4. **五感**を働かせる（五感を意識できる）場
5. **想像を膨らませる**ことのできる場
6. 色々な**発想を形に**できる場
7. 子どもたちが**隠れて遊べる**場
8. 子どもなりの**きまりやルール**が生じる場
9. **繰り返し**同じような遊びができる場
10. 子ども（たち）が自分（たち）の**目標に向かって挑戦**をすることができる場



* 宮本雄太・秋田喜代美・辻谷真知子・宮田まり子「幼児の遊び場の認識：幼児による写真投影法を用いて」『乳幼児教育学研究』，日本乳幼児教育学会, 25, 9-22, 2016.

2-1. 子どもの経験

- 様々な物理的環境が子どもの経験を支えており、環境の特徴に応じた経験がある

(例)

「繰り返し同じような遊びができる場」：すべり台、鉄棒、複合型遊具

「一息つくことができる場」：縁側・デッキ・テラス、ベンチ

「五感を働かせる（五感を意識できる）場」：雑草地や芝生地、樹木、土の場所



物理的環境が多様であれば、子どもの経験は多様になる

- 中でも、**砂場**は特に多くの項目で選択され、**多様な経験ができると考えられる**

色々な発想を形にできる場（80.5%）

想像を膨らませることのできる場（74.4%）

繰り返し同じような遊びができる場（72.8%）

五感を働かせる（五感を意識できる）場（60.4%）

子どもなりのきまりやルールが生じる場（52.5%）

目標に向かって挑戦をすることができる場（31.6%）



2-1. 子どもの経験

どのくらい多くの場所に、それぞれの経験が生じうるのか？

合計点を算出
「1~29の選択数」×10

「子どもの経験」スコア
とする

園庭全体/開けたスペース/雑草地や芝生地/築山や斜面/遊び小屋/樹木/生垣/トンネル/砂場/土の場所/水道や井戸/水路や池/プール/花壇/菜園/飼育スペース/複合型遊具/鉄棒/ジャングルジム/ブランコ/滑り台/登り棒/うんてい/シーソー/縁側・デッキ・テラス/東屋/ベンチ/屋外用机/その他

1. 子どもたちが隠れて遊べる場
2. 一息つくことができる場
3. 繰り返し同じような遊びがで
4. 色々な発想を形にできる場
5. 他の子どもの遊びを見ること
6. 子どもなりのきまりやルール
7. 子ども（たち）が自分（たち）に向かって挑戦をすることができ
8. 友だちと待ち合わせをしたり、自
9. 想像を膨らませることのできる
10. 五感を働かせる場

度数	1663
平均値	41.22
中央値	36.00
標準偏差	25.57
最小値	0
最大値	200

次の
「決まりごと」
との関連で検討

2-2. 決まりごと

様々な決定に、誰がどのように関与しているのか？
その関与と、子どもの経験との関係は？

- 「雨上がりの園庭に出ることについて」「水を使用する量について」など、13項目
- 「子どもが決める」「保育者が決める」「子ども達と保育者による話し合いで決める」「一律禁止している」の4つから選択



2-2. 決まりごと

多くの項目で、「**子どもと保育者との話し合いにより決める**」とする施設が多いが、降雨中・後の園庭使用や果実摂食のように**安全に関わるものについては、保育者が決定する施設が多い**。

＜子どもが決める＞＜話し合い＞が多い

…8. 木登りをするについて(34.6%/33.5%)

＜保育者が決める＞が多い

…1. 雨上がりの園庭に出ることについて (53.9%)

2. 雨が降っている最中に園庭に出ることについて (45.6%)

10. 果実を摂食することについて(43.4%)

＜話し合い＞が多い

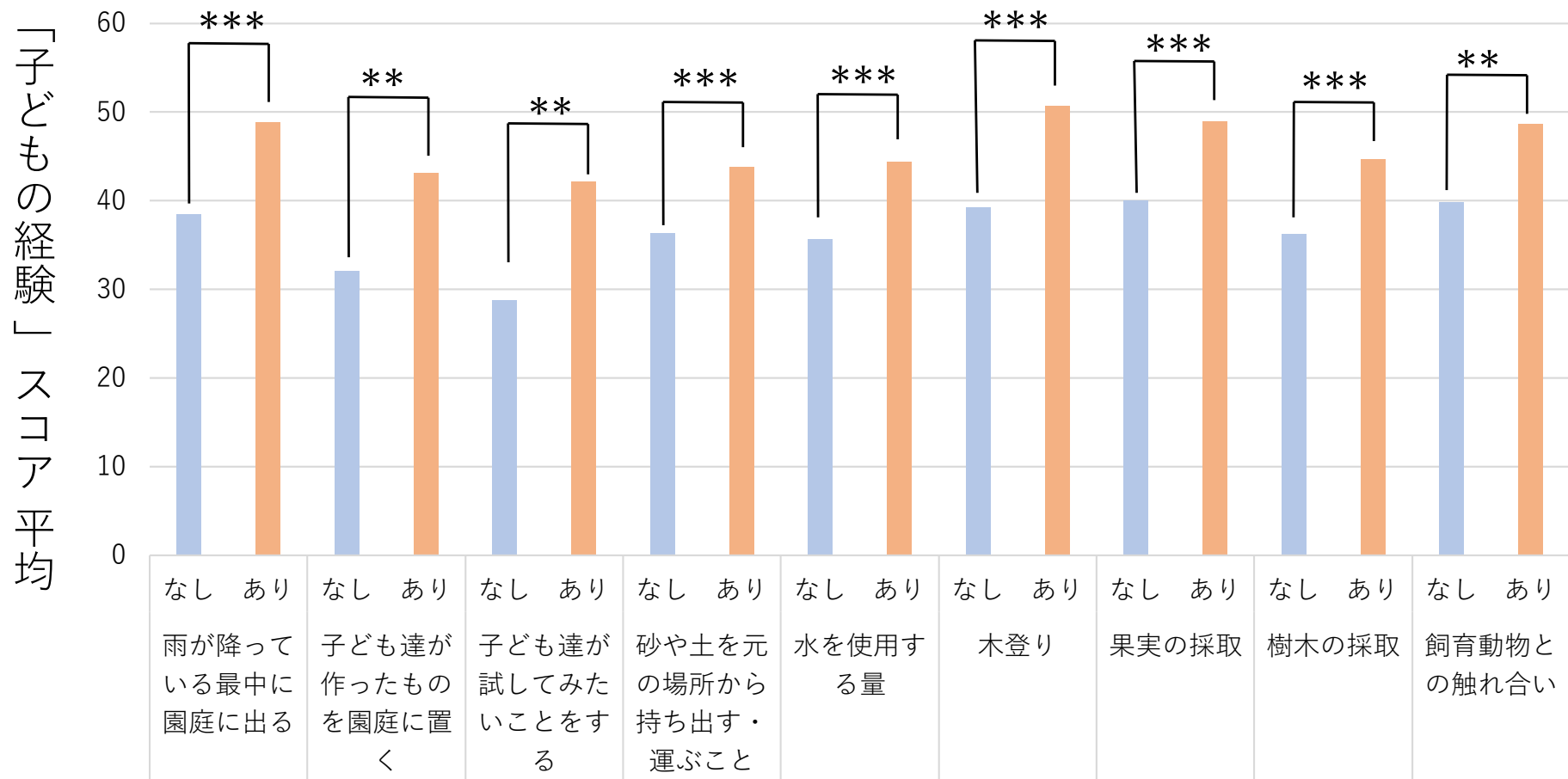
3. 子ども達が作ったものを園庭に置きたいとき (75.4%)

4. 子ども達が試してみたいことをするとき(74.4%)

その他の項目全て

2-3.子どもの経験と「決まりごと」

子どもが決まりごとに関与する施設では、より多様な場所
で多様な経験が生じている可能性がある。



2. どのような実態があり、いかに実践がなされているのか？

子どもの経験

物理的環境が多様であれば、子どもの経験は多様になる

砂場 特に多くの項目で選択され、多様な経験ができる

決まりごと

多くは子どもと保育者との話し合いにより決められている

安全に関わるものは保育者が決定する施設が多い



子どもの経験

決まりごと

子どもが決まりごとに関与する施設では
より多様な場所で子どもの経験が生じうる

2-4.大切にしたいこと

施設では、何を重視しているのか？

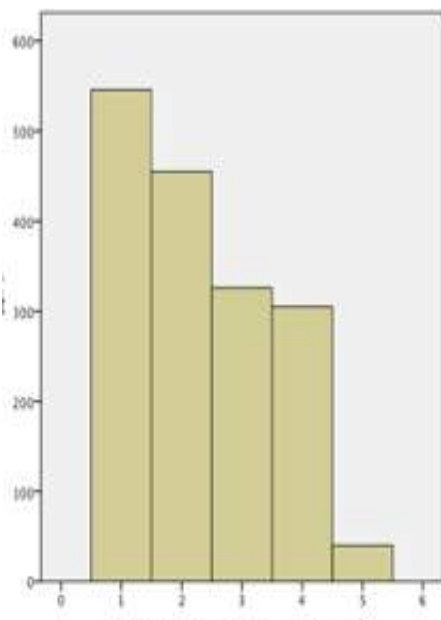
- 「経験する内容」「人との関わり」それぞれ5項目について、1～5位の順位づけ

2-4.大切にしたいこと:経験する内容

多くの施設で**重視**されている(1~2位が多い)：

「**疑問に思ったことややってみたいこと**を試したり表現することができる」

「**自然の美しさや不思議さ**を感じることができる」



順位がばらける：

「**体力や運動技能**を育てることができる」

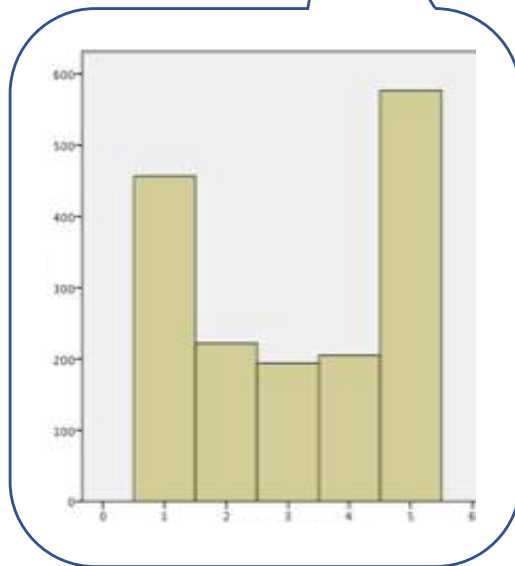
多くの施設で**相対的に重視されない**(5位が多い)：

「**科学的な視点**を持ったり、**数や文字**を意識したりすることができる」

2-4.大切にしたいこと： 人との関わり

多くの施設で**重視**されている(1~2位が多い)：
「**子どもだけで**遊ぶことができる」

順位がばらける：
「**保育者と一緒に**遊ぶことができる」
「**多様な人と関わる**ことができる」



相対的に重視されない(5位が多い)：
「**一人だけで**遊ぶことができる」

2-5. 園庭に関する情報共有

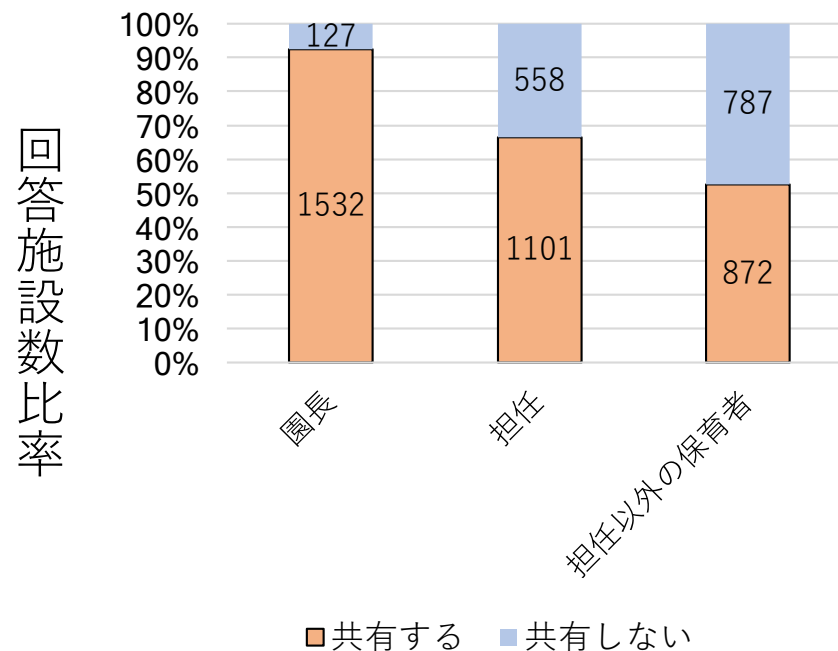
担任や他の保育者が共有する情報は？

- 「事故や怪我」「構成や配置換え」「使用するクラスや時間帯」など、7項目
- 誰が情報共有しているのかを選択（園長、理事長、副園長、主任、**担任、担任以外の保育者**、保護者 他）

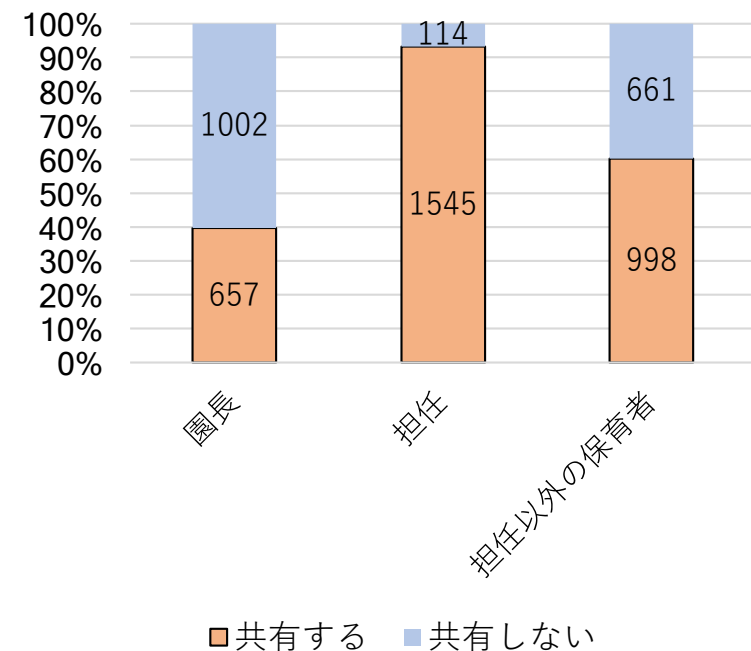


2-5. 園庭に関する情報共有

担任保育者・担任以外の保育者は
活動計画や遊び、事故や怪我、使用する時間帯などを共有している比率が**高い**が、**園庭の構成や配置換え、園庭の整備**については、共有している比率が**低い**。



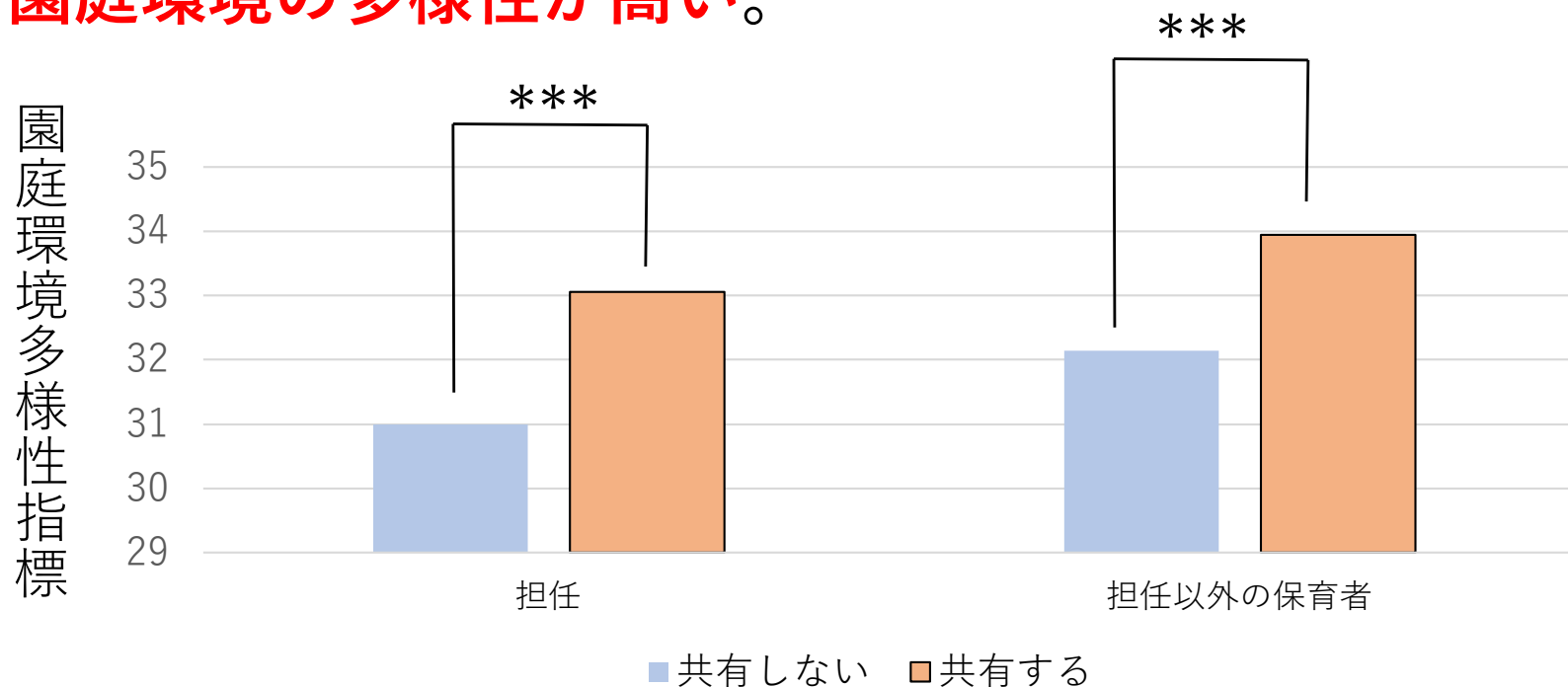
園庭の整備



活動計画や遊び

2-5. 園庭に関する情報共有

担任保育者や他の保育者が、施設内で「**園庭の整備**」の**情報を共有**している施設では、していない施設よりも、**園庭環境の多様性が高い**。



園庭の整備

2. どのような実態があり、いかに実践がなされているのか？

大切にしたいこと

多くの施設で
重視：

疑問や興味を実際に試すこと、
自然の美しさや不思議さを感じることに

子どもだけで遊ぶことができることに

情報共有

（他の情報と比べて）少ない：

園庭の整備や配置換えについて、
担任やその他の保育者が共有

多様性指標

共有している施設では
園庭環境の多様性が高い

Ⅲ 結果：3つの問い－ 3

3. 各施設における特徴的な取り組み。
園庭が無かったり狭くてもできる工夫は？

3-1. 改善したいこととは？

3-2. 物理的環境の多様性が高い園庭の工夫は？

3-3. 面積が小さい園庭の工夫は？

3-4. 園庭がない施設の工夫は？

3.各施設における特徴的な取り組み。 園庭が無かったり狭くてもできる工夫は？

3-1. 改善したいこととは？

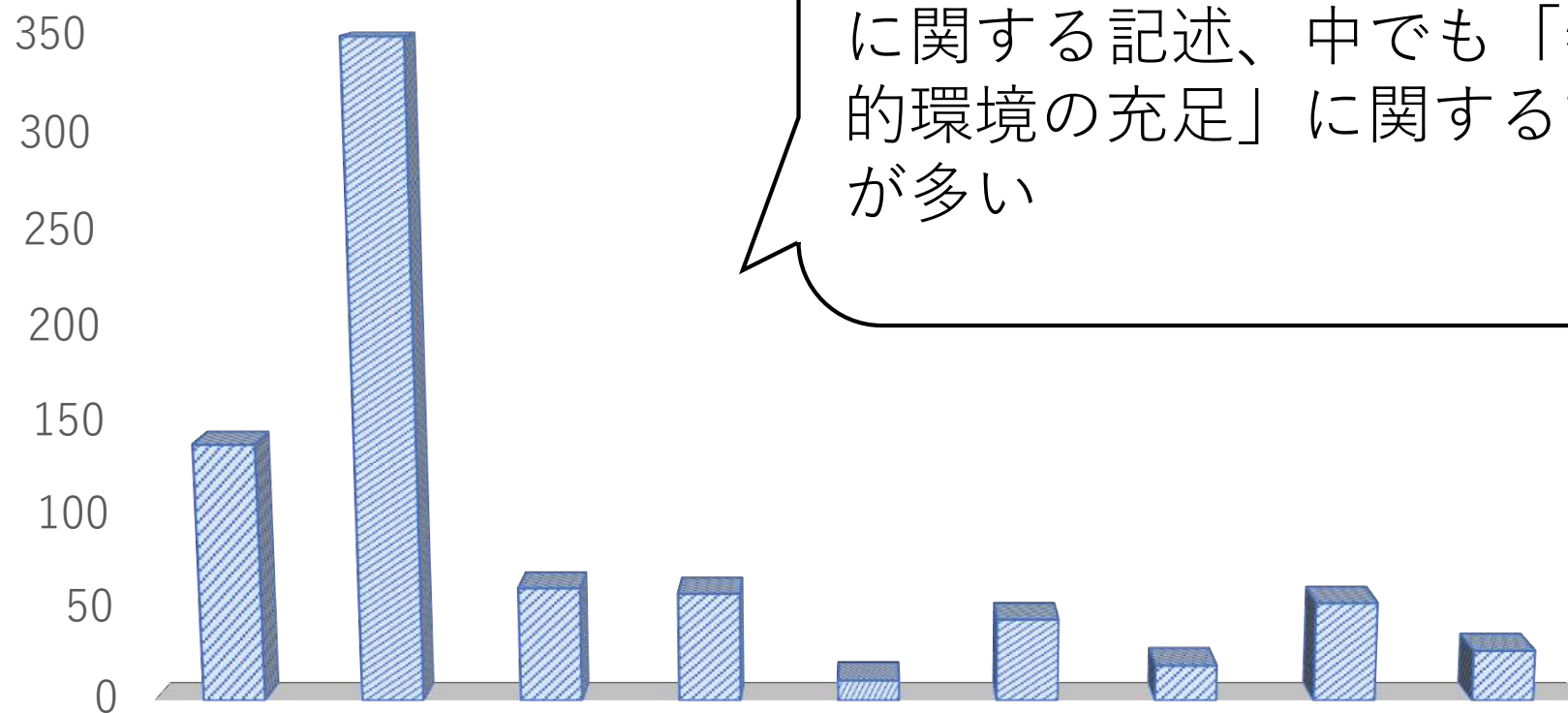


table：改善したいこととして記述された要素（N=643）

カテゴリー	記述数	具体的要素	内容	記述数
園内有形要素 (ハード面)	606	面積	「広さ」や「狭さ」など面積に関すること	138
		物理的環境の充足	物的環境の増減や変更に関すること	349
		整備・費用	既存の環境への整備や費用に関すること	61
		安全性	危険への危惧など安全への取り組みに関すること	58
園内無形要素 (ソフト面)	55	人的環境	職員の数と資質に関すること	11
		活用の仕方	保育方法など利用の仕方に関すること	44
園外要素	99	地域活用時	地域環境に関すること	19
		近隣との関わり	近隣との関係性に関すること	53
		行政	行政への要望など	27

園庭改善カテゴリ別記述数

改善点



「園内有形要素(ハード面)」に関する記述、中でも「物理的環境の充足」に関する記述が多い

面積

物理的環境の充足

整備・費用

安全性

人的環境

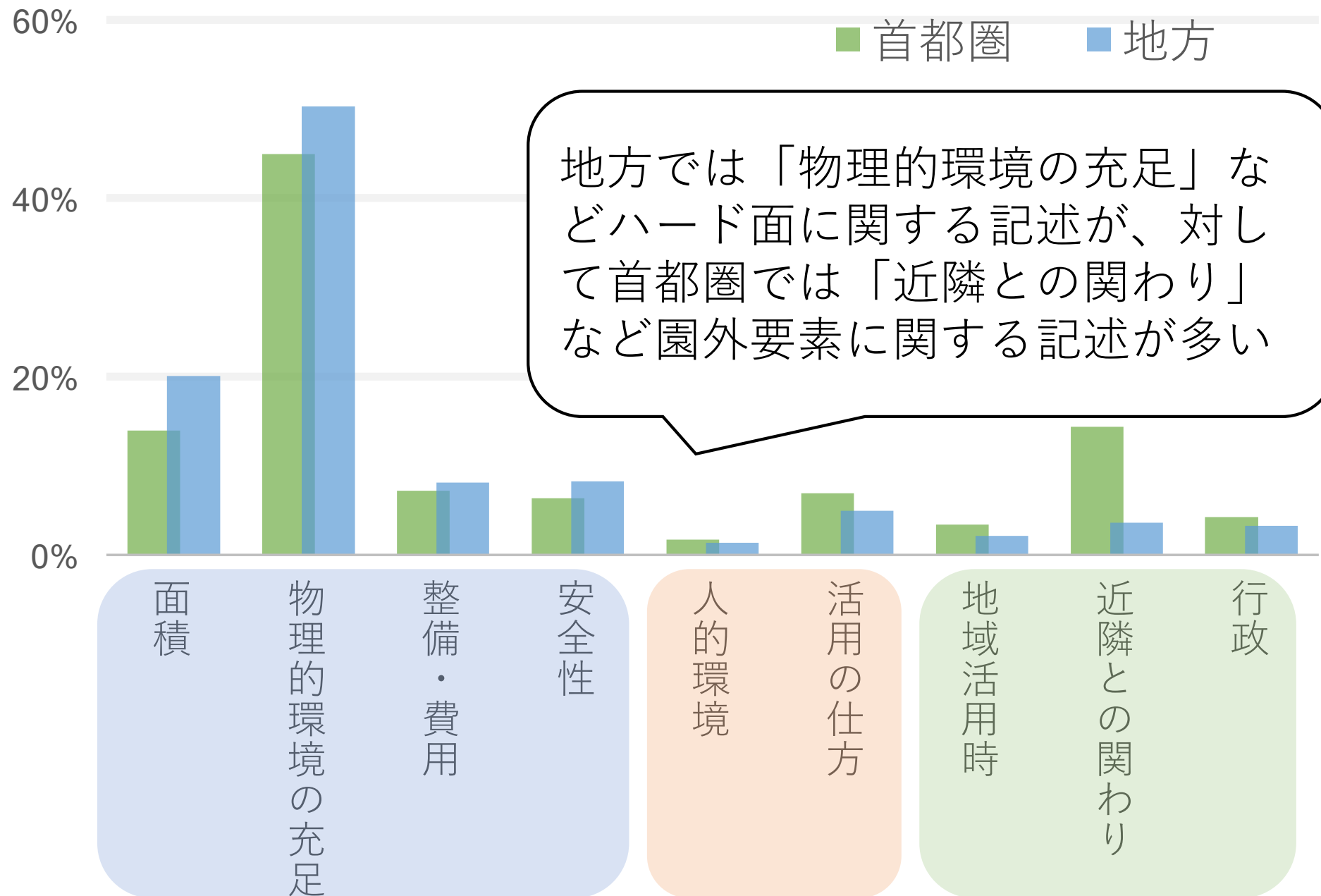
活用の仕方

地域活用時

近隣との関わり

行政

地域別 園庭改善カテゴリ別記述割合

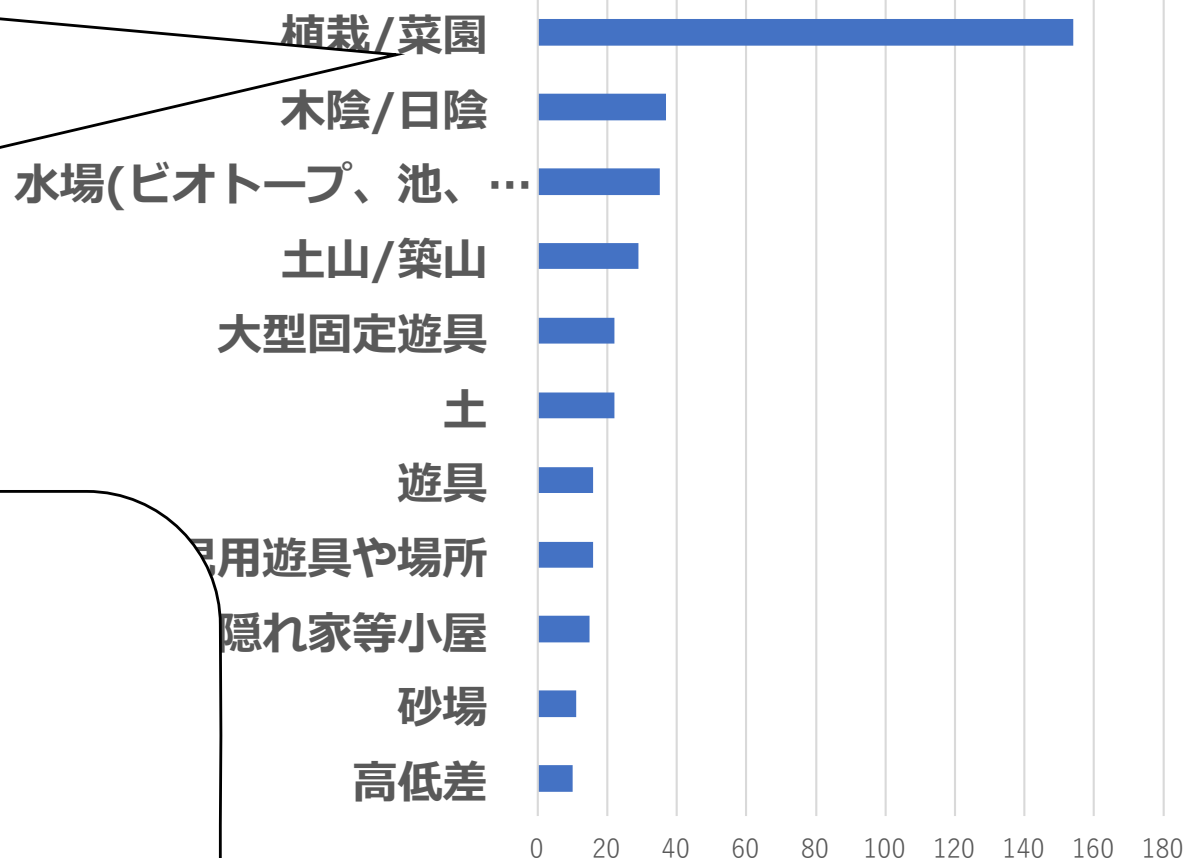


物理的環境の充足
= 自然(有機的/応答
的環境)の充足

その他

- 遊びこめる場
- 挑戦できる運動遊具
- 遊びが広がる場
- 休める場所
- 発想や想像が活かせる場
- 五感を刺激する遊具

等の要素を求める記述も



保育方法など利用の仕方に関する
こと

44

地域環境に関すること

19

近隣との関係性に関すること

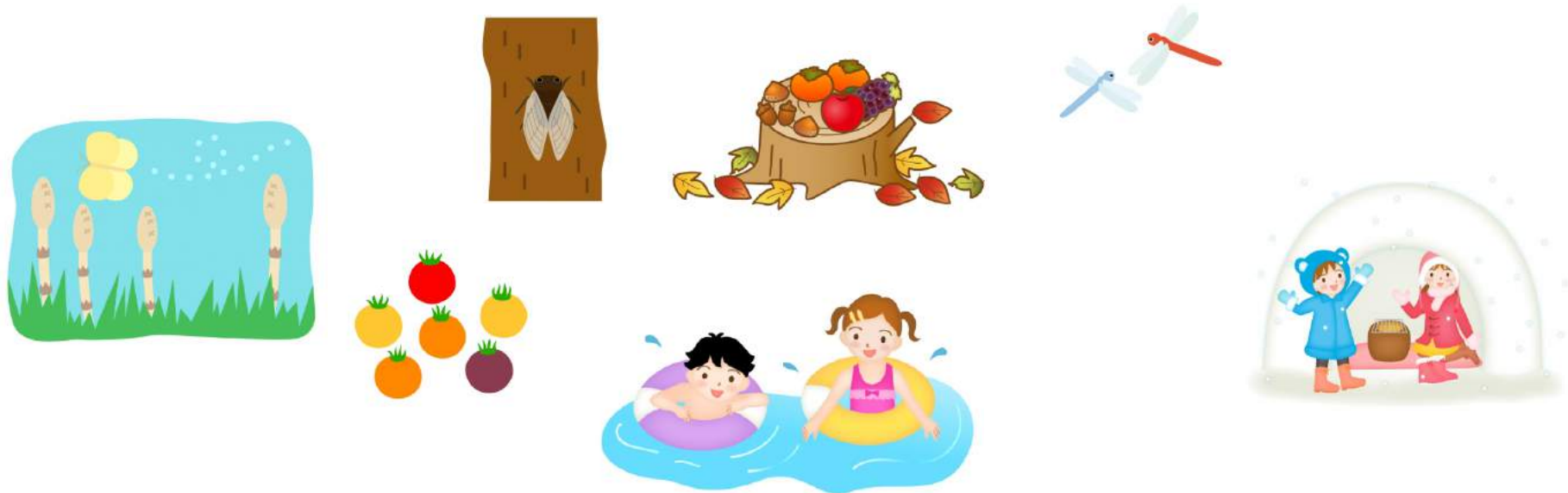
53

行政への要望など

27

3. 各施設における特徴的な取り組み。 園庭が無かったり狭くてもできる工夫は？

3-2. 物理的環境の多様性が高い園庭 の工夫は？



物理的環境の多様性が高い園庭A



第一光の子保育園(宮城県)

物理的環境の多様性が高い園庭A



「園庭を一望できる山、手作り遊具（ブランコ e t c）、車掌車（旧国鉄時代の物）。」

物理的環境の多様性が高い園庭A



第一光の子保育園(宮城県)

物理的環境の多様性が高い園庭A



「子どもたちが工夫して遊べる遊具環境を心掛けています。」



物理的環境の多様性が高い園庭A



「**できる限り禁止事項をなくす**様にしている。」

物理的環境の多様性が高い園庭 B



日向なないろ保育園(宮崎県)

物理的環境の多様性が高い園庭 B



日向なないろ保育園(宮崎県)

物理的環境の多様性が高い園庭 B



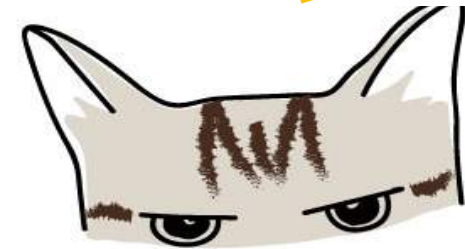
日向なないろ保育園(宮崎県)

「園の情報をオープンにしている。**情報発信をたくさんする**ことで、地域、保護者の理解を得られる。**Line**は保護者と園職員間の**グループ**を作っており、毎日の活動を都度共有している。職員間の**情報共有にも利用**している。」

3. 各施設における特徴的な取り組み。 園庭が無かったり狭くてもできる工夫は？

3-3. 面積が小さい園庭の工夫は？

面積350㎡以下



面積が小さい園庭C (230㎡)



「・職員間で共有するために『**環境フ
リートークノート**』作成
・**雑草**を植え**虫**が息づくスペース『むし
むしランド』作成
・**園舎裏**のスペースを子どもが行き来で
きるように整備、『ふくろうの森』作成。
落ち葉、木の枝をそのままにし、虫やカ
エルを生存させている。土の面に高低を
つけ、あえて**デコボコ道**をつくり、**都か
らの助成**をうけて**緑化に努める**。その活
動を『わくわくランドプロジェクト』と
命名、職員全員で取り組む。※**保護者向
け**にわくわくランド新聞発行。その一枚
を同封。」

面積が小さい園庭C (230㎡)



池袋第二保育園(東京都)

面積が小さい園庭D (359m²)



とみなみこども園(大阪府)

面積が小さい園庭D (359㎡)



とみなみこども園(大阪府)

面積が小さい園庭D (359㎡)



「自然にふれる機会がふえるように、**保育者自身が自然に興味**を持って生活し、その姿を子ども達に見てもらいたいと考えている。**園庭の1/3程は樹木や草花、雑草地**であり、虫がいることに気づいたり、葉の色の違いを知ったりと子ども達は日々五感を使って遊んでいる。もっと樹を増やしたいと思い、園庭の10ヶ所程、新しく“樹の赤ちゃん”を**子ども達と植えた**。10年後が楽しみである。

園庭面積が小さい施設の工夫（面積350㎡以下、34施設）

物理的環境	記述した施設数	工夫内容
植栽（実のなる木、果樹、雑草、花壇）	9	・ 樹木の花や実を季節を通して楽しむ。 ・ 雑草を植え虫が息づくスペース作成。 ・ 落ち葉、木の枝をそのままにし、虫や蛙を生存させる。
菜園・田んぼ	3	・ 栽培と食とつなぐ。 ・ カゴやビニール袋を利用した'小さな田んぼ'。
可動遊具	2	・ 常設し、子どもが自分で出して遊べるような環境に。 ・ 自由に出して自分達の発想で遊べるように数種類準備。
砂場	2	・ 小さな砂場
土	1	
芝生		
小さな池		
アトリエエリア		
地面に凹凸		
園舎裏の活用	1	

小スペースでも
多様な活動が生まれる

環境づくり
(=対スペース効果が大きい)

園庭面積が小さい施設の工夫 （面積350㎡以下、34施設）

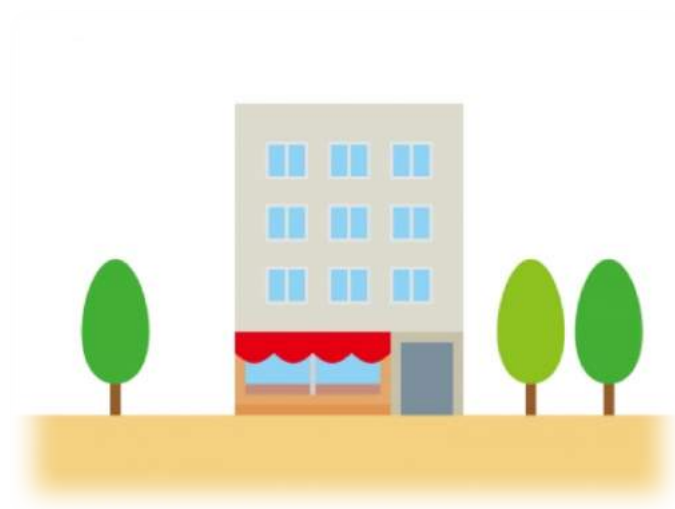
物理的環境	記述した施設数	工夫内容
植栽（実のなる木、果樹、雑草、花壇）	9	・樹木の花や実を季節を通して楽しむ。 ・雑草を植え虫が息づくスペース作成。
菜園・田んぼ	3	・栽培と食とつなぐ。 ・カゴやビニール
可動遊具	2	・常設し ・自
砂場	2	・大
土	1	・今
芝生	1	・乳児用

園庭環境をさらに
活かす取り組みや
保育者の関わり

- ・専門職員による自然プロジェクト“しぜんのじかん”。
- ・子どもと一緒に赤ちゃんの樹を植える。
- ・自発的な活動、自由な活動を促す関わり。
- ・幼児クラスと乳児クラスが一緒に過ごせる遊び方へ移行（乗り物の活用がなくなってきた）。

3. 各施設における特徴的な取り組み。 園庭が無かったり狭くてもできる工夫は？

3-4. 園庭がない施設の工夫は？



園庭がない施設の工夫

園内での取り組み

場所	記述した施設数	活動内容	物理的環境
室内	8	水遊び	大きなプールにたらいを置いて
		ボール遊び	
		遊具、可動遊具遊び	アスレチック、平均台、すべり台
		制作、ごっこ遊び	
		運動遊び	オープンな空間にして
		ダンス、体操教室	
玄関・スロープ	3	水遊び	・ 大きいプールにたらいを置いて ・ 1人1人のたらいを用意
		しゃぼん玉遊び	
屋上	2	遊具、乗り物遊び	遊具、乗り物設置
中庭	1		
駐車場	1	縄跳び等	園バス駐車スペースを空けて
体育館	1	毎週活動	
ベランダ	1	遊具遊び、運動会	コルクを敷き、小型遊具を設置

園庭がない施設の工夫



園庭がない施設の工夫

地域活用

場所	記述した施設数
近隣公園	37
散歩	11
近隣の園庭がある施設と連携し園庭利用	6
遠方の公園 (歩く力・大きな公園)	3
神社	2
川の土手、池	2
地域のいろいろな場所	2
森	2
地域のパブリックススペース (商業施設、オフィスビル)	2

場所	記述した施設数
広場	1
近隣中学校の校庭	1
スポーツセンター (水遊び)	1
駅ビル屋上のプール	1
市民農園	1
JAの花壇	1
車が通らない路地 (公園が満員の場合)	1
児童館	3
系列組織のスペース (敷地、多目的室)	3

* **83施設中、50施設**が「地域活用」について記述。

* 13施設は「天気が良ければ」「できるだけ」など**積極的に戸外へ**出かける旨を記述。

園庭がない施設の工夫

地域活用

場所	記述した施設数
近隣公園	37
散歩	11
近隣の園庭がある施設と連携し園庭利用	6
遠方の公園 (歩く力・大きな公園)	3
神社	2
川の土手、池	2
地域のいろいろな場所	
森	
地域のパブリックススペース (商業施設、オフィスビル)	2

場所	記述した施設数
広場	1
近隣中学校の校庭	1
スポーツセンター (水遊び)	1
駅ビル屋上のプール	1
市民農園	1
(カ)	3

地域の**多様な場所**が
活用されている

* **83施設中、50施設**が「地域活用」について記述。

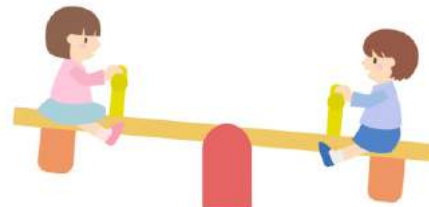
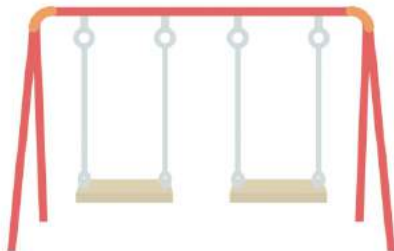
* 13施設は「天気が良ければ」「できるだけ」など**積極的に戸外へ**出かける旨を記述。

園庭がない施設の工夫

地域活用

公園利用時など、他園と重なった際の工夫

一緒に使う	譲り合って利用
	時間をずらす
	室内で体を十分動かしてから出かける
	自園以外の子どもと遊べるようにする
	探索遊びなど、遊び方を変える
	他園と共有の相談
別の場所に移動	別の公園へ移動
	車が通らない路地で活動



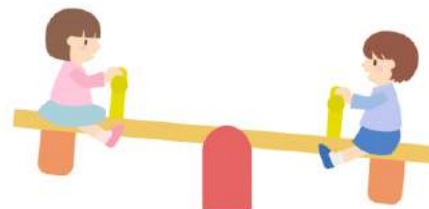
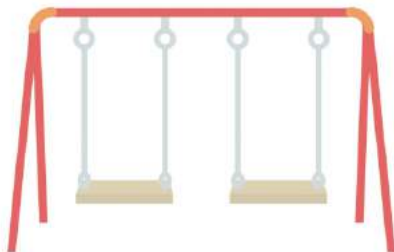
園庭がない施設の工夫

地域活用

公園利用時など、他園と重なった場合

一緒に使う	譲り合って利用
	時間をずらす
	室内で体を動かす
	自園以外の子ども会
	探索遊びなど
	他園と共有の施設
別の場所に移動	別の公園へ移動
	車が通らない路地で活動

- ・ **遊び方の工夫**
- ・ **他園との連携**によって地域活用が深まる可能性



歩いていける範囲内に公園など、 園児が活動できる場所が**複数**あることの重要性

理由	記述内容
状況や活動内容に応じた環境を選択	・遊び内容に応じて公園を変える。
	・園児の年齢が低く、 公園で大型遊具がメインの所では遊びが広がらないため、広場を探し遊ぶ。
	・小さな公園がたくさんあり、その時の状況でいろいろな所に出かける。
	・公園や神社がいくつもあり、その中で遊具の選択、場所、遊びと考えている。
	・公園や遊べる空間を探しにいき、 バリエーション を持たせるようにしている。
	・年間を通していろいろな場所を選んで出かけている。
子どもを飽きさせない	・飽きないように色々な公園に出掛ける。
他園と重なった際に移動	・他園と一緒にになってしまう場合には譲り合い、時には場所を移動。
	・他園と同じ公園になると大勢で危険になるので、別の公園へ移動。
	・公園が数少なく他の園と共有しなければならない。

歩いていける範囲内に公園など、 園児が活動できる場所が**複数**あることの重要性

理由	記述内容
状況や活動内容に応じた環境を選択	・遊び内容に応じて公園を変える。
	・園児の年齢が低く、 公園で大型遊具がメインの所では遊びが広がらないため、広場を探し遊ぶ。
	・小さな公園がたくさんあり、その時の状況でいろいろな所に出かける。
	・公園や神社がいくつもあり、その中で遊具の選択、場所、遊びと考えている。
	・公園や遊べる空間を探しにいき、 バリエーション を持たせるようにしている。
	・年間を通していろいろな公園がある。
子どもを飽きさせない	・飽きないよ
他園と重なった際に移動	・他園と重なった場合には場所を移動させる。
	・他園と重なった場合には別の公園へ移動させる。
	・公園が数少ない場合は無理に移動させない。

**乳幼児に適した
多様な環境の
必要性**

3. 各施設における特徴的な取り組み。 園庭が無かったり狭くてもできる工夫は？

改善点

地方=ハード面／首都圏=近隣や行政との関係、活用の仕方

物理的環境の多様性が高い園庭(A・B)

子どもたちが工夫できる・禁止事項・保育者間の情報共有に特徴

面積が小さい園庭の工夫

多様な活動を生成するための環境を活かす取り組み。

園庭がない園の工夫

積極的に戸外へ → 地域活用 → 様々な環境や人々と関係が築かれる

ただし乳幼児に適した、多様な環境は必要

IV まとめ

園庭は…

- **子どもの主体的な活動**を可能にする
- **長時間の戸外活動と経験が保障**できる可能性が生まれる
- **多様であることが重要**
- 多様性は、物理的なことの改善や充足のみならず、**決まりごとの決定の仕方**や**保育者間の情報共有の仕方**によっても生み出せる

園庭があることが望まれるが、園庭以外の地域の戸外環境利用においては、**乳幼児のための多様な要素を含んだ環境**を設計し、それを育んでいくことは重要で不可欠である

子どもの豊かな経験を保障する園庭・屋外環境

- 多様な活動が生まれる、スペース対効果の高い環境づくり
- 子どもが工夫して遊べる場

ハード

- 施設の職員間での、園庭に関する情報共有
- それぞれの場における子どもの経験を捉える
- 子どもの関与のあり方や禁止事項の見直し

ソフト

- 他園、保護者、地域との連携
- 地域の多様な場所を活用
- 地域にも、子どもに適した多様な環境の必要性

地域社会

豊かな園庭・
屋外環境

